

総 社 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 会 平成26年9月24日 午後3時0分
- 2 閉 会 平成26年9月24日 午後5時12分
- 3 場 所 総社市保健センター2階 資料展示室
- 4 出席又は欠席した委員

出席委員

委員長	林 直 人
委員長職務代理者	米 谷 正 造
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	下 山 洋 子
委 員	三 宅 眞砂子
委 員 (教育長)	山 中 榮 輔

- 5 会議に出席した者

教育次長	矢 吹 政 行
参事兼庶務課長	三 村 和 久
学校教育課長	東 長 典
生涯学習課長	佐 近 昇
文化課長	谷 山 雅 彦
学校教育課主幹	風 早 潤 一
庶務課課長補佐	富 森 賢 一

- 6 会議録署名委員

小鍛治 一 圭	山 中 榮 輔
---------	---------

- 7 議事の概要 別紙のとおり

開会 午後3時0分

林委員長 ただいまから教育委員会を開会いたします。

では、まず、会議録の署名委員についてであります。会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、小鍛冶委員、山中委員の2名にお願いします。

この教育委員会には、議決案件が上程されておりませんので、まず教育長の報告からお願いします。

山中教育長 先月、全国学力テストの結果が公表されまして、県から市町村別の各教科の正答率が出されました。これにつきましては、後ほどご報告しますので省略いたします。もう一点、「頑張る学校応援事業」につきまして、総社市の方は総社中学校区で申請をいたしました。まだ結果は分かりませんが、9月中旬に審査をして10月始めに発表という運びになるようです。まだどういう審査の内容かは聞いておりませんが、単一校でも、県独自に調べて評価が高いところは選定すると。ですから、市町村の教育委員会が申請した分と県が独自に評価した分と、それを両方審査対象にするという風に考えているようです。

それから、議会の件につきましては、後ほど次長の方から詳細を言っていますが、お金の掛かる部分といいますと、防犯カメラの話が出ました。今回は三分の一、小中学校それぞれの三分の一を目処ぐらいで予算申請をしたんですけれども、市長から極力早く付けるようにという話もありまして、これについては、12月の補正に再上程し、残り分を追加申請しようと思っています。結果的にどうなるか分かりませんが、そういうことを考えております。

それから、8月末に「手をつなぐ親の会」の県の大会というのがありまして、これは学校の先生方、関係者、教育委員会もそうですけど、一年がかりでいろいろ準備をして、何とか無事終了いたしました。トラブルもほとんどなくて、皆さんからご好評をいただきました。どうもありがとうございました。

それから、9月6日の土曜日に自然体験プログラムで自然体験キャンプというのを維新小学校の校庭でやったんですけど、全部で十六名の参加がありました。テントを自分たちで三張り作っていました。楽しそうにやっているのを僕は途中までしか見てなかったんですけれども、後で雨が降りまして、ひどい目にあったという事を聞きました。本当にサバイバルゲーム、サバイバル体験をしたらしいですが、子ども達も非常に伸び伸びとやっていたということです。後でまた佐近さん、説明して下さい。

それからもう一つは、ホームステイ。21名オーストラリアに行きました。帰って来て非常にインパクトを受けたといいますか、印象深かったのは、行く前と帰ってからでは表情が全然違っていました。数人の子どもに聞いたんですけど、皆、「海外留学をしたい」「どうしたら行けるだろう」「南高がいいんじゃないかな」と言っていました。すごくアクティブでした。非常に効果が出たんじゃないかと思います。

それから、オーストラリアからもキューハイスクールからホームステイに来られました。

西中と姉妹校なので二年に1回来られるんですけど、今回はホームステイ先をかなり苦慮しまして、次長からいろいろ手を回していただいて、無理をお願いしたということがありました。ですから、これから交流するにあたって、こういうところが少しポイントになるかなと思っています。特定の方に負担に感じるようにならないようにしないといけないんですけど、ちょっと子ども達が国際化が始まっている割には、我々年寄りも駄目だなという、そんな感じを受けました。

林委員長 ありがとうございます。何かご質問等ございますか。

米谷委員 先ほどの、総社市でのホームステイ先はどのようにして確保されたんですか。行った子の家ということですか。

山中教育長 基本はそうです。

東学校教育課長 オーストラリアのキューハイスクールという所から15人の子どもが来ました。高1の学年の子が1人か2人はいましたけど、あとは中学生の学年の子達です。15名のうち13人が男子で、2人が女子。西中で全て引き受けるのが基本なんですけれども、女子の生徒のところは受け入れたいという家庭が多いんですが、2人だけしか駄目です。あとは全員男子ですので、そこに困ったんです。ですから、8人くらいは西中でなんとか確保できたんですが、あと足りない男子生徒を受けてくれるところは、西中に比較的通いやすい東中学区の子どもと、総中学区のお子さんの家も一人だけ受けて下さいました。なんとか15人を受けることができたという格好になっています。東中にしても、それから西中もですし、総中で一人受けて下さった方も、かつて自分のところの子どもがこの中学生のホームステイの制度でオーストラリアに行かせてもらったと。そういうことで今度は逆に受けましょうということで受けて下さった方も中に含まれて。相互のホームステイという形もできています。全員じゃないですけど、そういうケースも出てきています。今後、西中だけで受けることになる、キューハイスクールは基本的に7:3ぐらいの割合で男子が多い学校ですので、それについてどういう風にマッチングをしていくかっていうのが課題になっているので、場合によっては東中も、どうせなら姉妹校を結ぶことができれば結ばせてもらって、それで両方の学校で受けることが可能になる。学校生活は基本的に皆西中に来るんですけど、家は東中の学区でという、ちょっと変則的な生活をせざるを得ないということになるので、何とか改善を考えていかないといけないと思います。

米谷委員 受け入れることも、子ども達にとっては非常に有意義なことだから、東中でもそういう経験ができれば、オーストラリアの子ども達が来るだけで学校の雰囲気というか、それもまた変わるでしょうし、そういう英語とか外国人に対する対応の受け入れやすさということで、ぜひともしていただきたいなと思います。

林委員長 他にございますか。

下山委員 自然体験学習についてですけど、16人の参加があったということですが、どういふ小学校の子ども達がそういう自然体験をしたのかということ。それから、「頑張る学

校応援事業」に総中ブロックのことを出しているというのは、学校の先生達にご存知なんでしょうか。

林委員長 これは報告事項の中に二つとも含まれているんですが、後からまとめてでよろしいですか。それではその辺も含めて、後から説明をお願いいたします。他にどうですか。

林委員長 次に、報告事項等に移りますが、まず「9月定例会市議会について」事務局から説明願います。

矢吹教育次長 【事務局説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見等はありませんか。

行政報告で全部返すっていう話があったのは、なかなか大変じゃないかなと僕は思ったんですけど。

矢吹教育次長 行政報告するのは市長ですから、市長がそこで「できません」とか「まだまだです」とはなかなか言いません。

山中教育長 各委員会で調査があります。その中で聞いてもらおうと一番いいと思うんですけど、こちらからは言えないんです。聞かれたことだけに答えるというシステムになっています。だから、行政報告的なことはなかなかないので、本当はそこでもう少し、仕組みを変えたらいいんだと思います。そこまでなかなか踏み込んで考えていないという感じです。

矢吹教育次長 市長が答えたらもう終わりで結論になっちゃいますからね。それはちょっと怖い。以前、委員会で反応を伺いながらというのもあったんですけど、今回そういうこともなくなるので、そうは言いながらちょっと微妙だと思います。

林委員長 他にありますか。

下山委員 市のプール利用についてお尋ねですけれど、利用促進ということが今挙げられましたが、実際どの程度、今利用があるのかなと思ったのが、割と子ども達の様子を見ていて、学校のプール教室に行って、その後はどこに行ったらいいか分からないとか、親も知らないで、サントピアに行ってみたりとか倉敷に行ってみたりとかいうような話をよく聞くんですけど、どのくらいの利用とか、どのくらいの広報、お知らせをしているのかなと思いました。

佐近生涯学習課長 だいたい9千人ぐらいで利用を推移しておりますが、今年度はちょっと天候不順とかありまして、5700人ぐらいで留まっております。利用促進につきましては、指定管理者の方からチラシ等でPR等させていただいています。今回の議会でも出ましたので、その中で今後は広報総社の子ども版というのがあったりしまして、そういったところでPR記事を載せたり、それからインターネット、ホームページ等に記事を載せるとか、そういったことを取り組んでいきたいと考えております。

米谷委員 僕も子どもが小さい頃利用したことがあるんですけど、古い型のプールですよ。だから、楽しむっていうよりは泳ぎに行くという所なので、なかなか使い辛い部分がある。50メートルプールで深いところで小さい子は使えない。隣に小さいプールもあるんですけど。ですから広報でも、ソフトで何かできれば来る人も、「ここはこういう使い方ができる

んだよ」「向こうはたくさんいるので、多い時はこっちも使ってみようかな」って、そういう工夫が必要なのかなと、じゃないとなにかもったいないなと思いました。監視とかで人とかも張り付けられていると思うので、何かその辺り考えられないかなという風にちょっと今思いました。

佐近生涯学習課長 市のプールの位置付けなんですけど、一応そこで記録会とかをやっておりますので、どうしても競技用プールということで位置付けしております。改修というのはものすごくお金がかかるので、すぐに形を変えていくというのも難しいと思います。また、監視上、プールの中で浮き輪が使えないというのもありますので、どうしても、そこまで楽しくない施設ということになるのは仕方がないと考えています。浮き輪とかあるとプールの中でどんなことが起きているかというのがすぐに分からない。安いのは安いんです。そういったところをご利用いただけたらと考えております。

米谷委員 利用される方の年代とか人数とか、どういうタイプの特性の方が利用されているのかなって思うんです。本当にずっと泳ぎ続けられている方はほとんどいないと思うので。

佐近生涯学習課長 プール自体にコースロープを張っているわけではないので、ずっと泳ぎ続けるっていうような使い方っていうのはできず、ちょっと練習にということにはならないと思います。今後そういったコースロープを張る等してできるかどうか、検討していければと思います。

米谷委員 水位を下げてみるとか、ちょっと工夫するだけでいろいろな方がまた来易くなるのかなとも思います。

佐近生涯学習課長 検討したいと思います。

林委員長 私も昔プールの監視員を2シーズンした経験がありまして、浮き輪を使っちゃいけませんとかそこから全然変わってないです。今はゴーグルはOKでしょうけど、飛び込みは禁止ですよ。やっぱりその時は、小学生とかぐらいが中心になって遊んでいましたけど、親子でという風なのはなかなかないですよ。そうやって見れば、もっと本当に、親子で楽しめるような何かがあればいいんじゃないかなあと思います。

小鍛治委員 倉敷になりますけど、真備に「いきいきプラザ」というのがありますけれども、あそこはたしか親子で何かするようなイベントがあったと思うんですけど、イベントみたいなものはないんでしょうか。

佐近生涯学習課長 イベントは特にはないです。そういうのも考えていきたいと思います。

林委員長 次に「8月の全国学力テストについて」事務局から説明願います。

風早学校教育課主幹 【結果の概要説明】

東学校教育課長 【市の公表の仕方、各学校の公表の仕方についての説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見等はありませんか。

三宅委員 中学生の学習時間が非常に少ないというのが、部活を本当に一生懸命されているので、それとの関係がどうなのかなということがちょっと気になりました。

東学校教育課長 部活動に本当に熱心で、それに時間がとられているという面も、たしかに否めないところがあると思っております。それから、物理的な時間は下校時刻が定められていて、これから秋になると日暮れが早いので、早く帰ると5時過ぎには下校になって、家に帰って家の時間もたっぷりあるという生活はしているはずなんですけど、学校という場で部活動にかけるエネルギーがものすごいので、体力だけでなく気力の面もかなり費やすので、家に帰ったら勉強に手が付かないというものもなきにしもあらずです。ただ、そうは言ってもやるべきことはしないとイケないので、それに関する取り組みをやらないとイケないかなと思います。

それから、夏休みについては、以前よりも部活動で子ども達が学校に集まってきた時に、ただ部の活動をさせるのではなくて、午前中は宿題であるとか、その子その子がしないといけない勉強の方をさせて、その上で部の練習もするという風な、そういう工夫もしています。集団でやるとなるとやっぱりやる気が出ますので、そういう手立ても、部活動の担当者は考えてくれているんですけど、更に平日の取り組みの充実がいるのかなと思います。

林委員長 他にどうでしょうか。

三宅委員 今スマホでLINE等を結構やっていると聞いています。息子のところは各学校でそれなりに勉強しているようなんですが、そのところが今後どういう風にしていくのかと思います。

東学校教育課長 本当に気になる点でございまして、以前の教育委員会でも申しましたけど、今まで6年生で情報モラルに関する勉強をしていたのを、もう5年生から前倒しでやろうとか、保護者に関するPTAの研修会でもそれを取り上げようという動きは広がっています。それから、総社西中が市の研究指定で今年度2年目ですので、研究発表会を11月に行うんですけども、その題材の大きな柱が、そういうLINEとかスマホに関する、SELの取り組みをしているんですけど、SELの中でも今回特にスポットを当てた題材というのが、スマホ等の利用なんです。今それを使うなど言えば簡単ですけど、やがてどこかの時点で、高校生とかの時点で皆スマホと出会うので、使うなどということだけを教えるんじゃなくて、使うとしたらどうあるべきなのかということ、具体的に西中ではやるようにしています。企業の協力もあって、実物のスマホを、インターネットには繋がっていない、閉ざされた世界でネットワークになった、そういうものを三十何人分一式貸してくれていまして、計画的に年間4、5回各学年がそれを使って実際に勉強する。こういうLINE的なソフトを使って、こういう風な物の言い方で言葉を送信したら、受け取った側がどういう気持ちになるかとか、そういうことも、実際にやってみて考えたりとか感じたことを言い合ったり、それによってどういう使い方がふさわしいのか、人間関係を良好なまま保てるやり方、そういう学習も先進的なところでは出てきている。その研究発表会は、皆さんで見に行っって市内に広がっていったらいいかなと思います。

林委員長 他にどうでしょうか。

米谷委員 最初のご報告の2ページ目に、各小学校毎の成績の結果が出ているんですが、この星三つの、学校での授業の仕方が違うであるとか、いろいろ授業の内容の問題もあると思うんです。例えば、クラスの人数であるとかっていう別の部分。例えば、ここだけでも大きな点数の開きがあるけれども、上位校と比べるともっと開きがあるという、この辺りの原因というか、学校の運営の方法については、先ほどの小学校の取り組みがあるのでよく分かったんですけど、この違いというのはどこにあるのかというのがちょっと読みとれなかったのですが、どういうところにあるのでしょうか。最上位と最下位ではすごい開きですよ。80点もある。1教科で10点も違うというのは、ちょっと何か根本的な違いがあるのかなあと思いました。

東学校教育課長 人数は、実際に受けた実人数ですけれども、欠席の子が割とたくさんいたのでこういう風になっております。よく点が取れるであろうというお子さんは、何人か休んだそうです。そういう面もあります。サイズが小さめの学校は、そういう子がいるかないかでだいぶ大きく差がつく。ただし、そうではない状況であっても、教科毎に比べた時に、得点が高い学校と低い学校で相当差があるというのは否めませんので、はっきりした要因というのが今、まだきちんと分析できていませんけれども、それぞれの小学校にこういう形で、実はこの2ページ目というのは、校長会でもお示しをさせてもらったんです。ですから、各校で現実を受け止めていただいて、また考えて取り組んでもらいたいなあと、そういう機運を作っているところです。

山中教育長 一つは小中連携がねらいでもあるんです。本当は小小連携をやってほしいんです。ところがそれがなかなかうまくいかない。端的に申し上げて阿曾小は非常にいいんですけども、阿曾小のやり方を全部やりなさいと言ってもすぐには難しい。なぜ阿曾小がいいのかというと、それは子ども達の心をきちっと育ててから、いろんなプログラムを徹底的にチェックシステムを作って標準化をして、先生方も同じことをやる。これが効果を奏しているわけです。上がったたり下がったりすることもあるんですが、恒常的にずっと悪いところもあるわけです。そんなにコンディションが違わないのにずっと悪いのは何故か。それはいろんな理由があるんですけど、私自身は、教員のいろんな教え方も含めた標準化がかなり遅れていると思っています。それと、学力だけ上げるために確かめテストをやった学校もあるんですけど、その時はぱっと上がったんですけど、またそれをやらなかったら下がってしまう。つまり、ただ単純に知識を詰め込むだけでは駄目ということなんです。そういうところは先生方が気づいておられるはずですが、それに着手できているところとできていないところの差がこの差だとそう思っています。先生方に阿曾小とかいろんな情報を開示して、校長先生毎にどういうプログラムで何をやりたいかというのを個別に話をしていこうと思っています。その代わり資源がいるんだったらそれを提供する。他の学校がやっとうまくいっていることもちゃんと提供する。そういう風にして個別にやっとうまくいかないとうまくいかない。もう一つは、校長先生の経営マネジメント能力の差があります。突然マネジメント能力を上げろ

と言ったってなかなか難しい。それをどううまくカバーしていくか。それは、教育委員会がサポートしながら一緒にやる。直接話しかけるといふか、働きかけないといけないと思っております。全体の学校を回ろうとは思っていますが、とりあえず課題のあるところから順番に職員会議に出席させていただいて、教育委員会が何をやろうとしているか、どういう考え方でやろうとしているか、何が課題だと思っているかということコミュニケーションを図るよう今スタートしたところです。中学校はもう3つ回りました。昭和はもう回る必要がないので回っておりません。これから小学校を順番に回ったり、課題のあるところからそれを順番にやろうと思っております。そうしないとなかなかこれは一般論でやってもうまくいきません。私が着任した時に県の学力調査成績を学校毎の一覧を校長会で公表しました。その時のリアクションはあんまり大した事なかったんですが、それをベースに輝きプランを校長会と共同で作成しました。この輝きプランの精神を生かしてきちっとやれているところがどれだけあるかということです。まだ全部は成果は出ていませんが、かなり成果が出てきております。そういうのは個別に話をしていけないと思っております。

下山委員 今説明等を見た中で、山手小の説明の時に「つまずきサポート」を地域の方にお願しているとか、それから各学校の補充学習で、高校生とかが来てボランティアで教えているような話も聞いているんですけど、ほとんどの学校で入っているだろうと思えますけど、その形は一斉学習のプリント指導じゃなくて、少人数でされている学校が多いんでしょうかということをお尋ねしたいと思いました。それで、この中にあった課題と反省のところ、上位の者が手持ち無沙汰にならないような工夫が必要とありましたが、そうするとやはり、一斉学習とか少人数指導になった時に、割と底上げで低位の子どもを上げようとする、上位の子がちょっと手持ち無沙汰になったり、するプリントがなかったりということがあって、グラフで17問正解っていうのが総社市の場合少ないのかなと思いました。そういう下位を引き上げるということはどんどんできているので、上位の子にもちょっと目を向けることが必要かなということをおもいました。

それから、この学習状況調査結果の各学校の改善プランですけど、これを見るとどちらも学力のことかなと思って。例えば裏にでも、総社市の場合、やっぱり生活習慣とか家庭学習について窪みがあるということなので、各学校の家庭学習時間やらゲームの時間やら読書の時間やら、そういうことについてもグラフにさせていただいて改善プランを出すとか、保護者をお願いするとかというのがまた付け加わるといいかなということをおもいました。

風早学校教育課主幹 例えば山手小学校の「つまずきサポート」というのは、たしかに指導の形態では少人数指導なんですけども、本当にありがたいご指摘だなと思ったんですけども、使っているものはやはり一斉の同じプリントを使っていました。だからそういうところで、今ご指摘いただいたように、一番上位の子が伸びる伸びしろといふか、そこの刺激が十分できていなかったかなと思います。今東小などが取り組んでいる放課後学習サポートなども、やはり一斉教材で順番に、いわゆる公文のプリントじゃないですが、やったら次やったら次

なので、実際に使っているのは一斉の形のものが多いかなと思います。

山中教育長 東小はプリントがかなりたくさんあるんです。それを子ども達がレベルに応じて自分達でやるんです。できる子はどんどんやるんです。それをサポートということなので、そういう意味では、上位者に対する対応も放課後サポートでできている。阿曾小も同じような傾向があります。ですから上位の子どもも伸ばせるようなベースができているから、この2つの学校は成果が出ているんです。山手小は詳しくまだ聞いていないんですけども、他のところはやはり一斉です。例えば今、協同学習を上手く活用するというのがいいと言われているんですけど、それだけでは、東小とか阿曾小のようなレベルまで伸びるのかどうか、これはちょっと実験しないと分からないと思います。組み合わせが必要かもしれません。

それからこの学校別の学力学習状況調査結果についても、これは必要最小限で、これだけは出しましょうということで、これ以外のことは出したらいけないというわけではないんです。学校毎にそれは出してもよろしいということにしてあります。

東学校教育課長 先ほどの二つ目の質問についてですけども、各校の公表のフォーマットですが、真ん中の段はここに挙げているのはサンプルです。例えば左側は学力で、算数と数学で県平均との比較で、大問で1番に出てくるような基本的な計算のところをこの例では挙げていますが、それ以外のところを学校によってはピックアップしてもいいわけなんです。ここは自由なんです。国語のこの辺を取り上げようとかいうんだったらそれでも構いません。それから右の列は学習状況で、このサンプルはたまたま学校の授業のスタイルとか目当てが示されているとかサンプルで挙がっているんですけど、ここに家庭学習時間を挙げてても構いません。学校が特にここをアピールしたいというところを、保護者に分かってもらいたいというところを意図的に挙げるという、真ん中の欄はかなり自由度が高いという形で考えています。

林委員長 学校の一覧表を見ると、こんなに差があるのかと思ってちょっとびっくりしているんです。このチャートを作った時に保護者がどのように感じるのかなと思って。保護者も、私の経験から言うと、そんなにどうのこうのって、あんまり全体のことよりも自分の我が子のことは仰るんですが、でもこう低いと、保護者の立場でどう考えるかなと思った時に、去年の5年生の担任は誰だったかなとか、やっぱりそういう風なことも思った時に、必ずそれに対してはこういう風な形のことを考えているとか何か、きちんとしたものがないと公表もできないんじゃないかな。つまり、次のことまで考えて公表すべきではないかという感じがするので、その辺のところも何か、教育委員会のサポートもちょっと考えていただいて、放り込めるような形でしていただけたら、低かった学校も元気が出るんじゃないかなという風な感じがします。それにしてもなんか低いなという感じがします。100点も差があるなんて、ちょっと考えにくいなという感じが、差があり過ぎるなという感じがします。

一つ私が気になったのが、この中の後ろから4ページ目に輝きプランの数値目標の達成状況というのがあるんですけど、その6番。1から6番までずっと設問がありますけども、

「授業中の私語が少なく落ち着いていると思うか」って、中学校100パーセントになっているんですよ。「礼儀正しい」も100パーセントになっている。これ単純に考えておかしいんじゃないかなと思うんですが。

東学校教育課長 担当者がこれ作ったんですが、個人的に私も引っかかっているところです。これは実は、学校の質問紙の回答なんです。ここの部分の⑥⑦は。タイトルのすぐ2行目の2個目のところに、「児童生徒・学校質問紙」になっていますよね。他のところはだいたい「児童生徒質問紙」で、子どもがどう答えたかの数字なんですけど、この⑥⑦は、学校がどう答えたかなんです。中学校4つしかありませんから、4つの学校の方が学校として、うちの学校は礼儀正しいかなと答えたら100パーセントなんです。だから「落ち着いて私語が少ない」は、落ち着いているかなと答えたら、もうそれで100パーセントになってしまう。4校がそう答えた。だから、これを一緒に並べてごちゃ混ぜに出すのはどうかなと個人的にはちょっと引っかかっています。子どものデータで何か示せる方がやっぱりよりいいのかなと。小学校についても15校しかないので、13校が答えたら86パーセントとか大きく変わるわけになりますから、ちょっと検討します。ありがとうございます。

下山委員 学校質問紙は別の項目にした方がいいですね。

東学校教育課長 これは学校質問紙だと分かるようにしないといけないですよ。要するに県平均との差とか全国と自分の学校が並べられています。

米谷委員 この学校毎のは全て出るんですか。

東学校教育課長 ホームページで出すのはしません。学校だよりという形でその学校の関係者に配ります。

米谷委員 学校内で終わるわけですか。

東学校教育課長 それもお知らせしています。

山中教育長 ホームページ上はこの市全体の分が出ます。

林委員長 全体的には非常に頑張ってそういった施策がちょっと効果があるんじゃないかっていう風に思います。ですから、いい方向ではないかなと個人的には思います。

この件についてはよろしいでしょうか。

林委員長 次に「手をつなぐ育成会岡山県大会 総社大会の結果報告について」事務局から説明願います。

風早学校教育課主幹 【事務局説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見等はありませんか。

前回は十何年前にやっていますよね。

風早学校教育課主幹 平成14年度。今回で総社に回ってくるのが4回目。最初に昭和52年に行った時に総社が初めてやりまして、それから平成2年、平成14年に続いて4回目です。今年は35回大会です。

林委員長 次に「頑張る学校応援事業について」事務局から説明願います。

東学校教育課長 【事務局説明】

東学校教育課長 学校の先生方にどれくらい知れ渡っているかというところで先ほどご指摘があったんですが、当事者の学校の方々は少なくとも分かっておられると思っています。

山中教育長 校長会でこれを出すという風に話をしました。

下山委員 「輝きプラン」の年度末のがありますよね。あれとこれの県の分がごちゃ混ぜになっておられる人もいます。そんな感じでした。

山中教育長 もう一度校長会で言っていただくようにお願いします。

林委員長 この件についてよろしいですか。結果待ちということですね。これ100万円でしたか。

東学校教育課長 そうです。

林委員長 次に「自然体験学習（サバイバル研修）の結果報告について」事務局から説明願います。

佐近生涯学習課長 【事務局説明】

林委員長 ただいまの事務局の説明に対するご意見等はありませんか。

これは来年も実施するんですか。

佐近生涯学習課長 この予算も特に何もついていなかったんですけど、ちょうどわくわくフェスティバルというのを夢基金とかでやらせていただいている部分がありまして、少し余裕があったことからできたものですので、来年どういう風な形になるかは分かりません。たまたま同じような時期に環境課がキャンプをやっております。協力して合同でやるとかということも検討していきたいなと思っています。それから先ほど言いましたように、指導者育成ということで、せっかく近くに国立少年自然の家がありますので、そういったところに指導者を送り込んでいきたいなと思っています。今回初めてやりまして、相当準備に時間がかかりまして、どのくらいの時間を要したかということ調べておくことを命じています。まだ結果が出ていないですけど、かなり下見に行くとか草刈作業を事前にしたりとか、いろんなことが出てきました。なかなか15、6名程しか子ども達を体験させることができなかつたんですけど、せっかくなら多くの子ども達が経験できるような仕組み作りというか、そういうことにウエイトを置いていきたいと思っています。

林委員長 他に報告事項等はありませんか。

三宅委員 【過去5シーズンのインフルエンザ感染状況について報告した。】

佐近生涯学習課長 【スポーツ推進審議委員会について報告した。】

東学校教育課長 【二学期に実施される研修会、研究発表会の案内をした。】

林委員長 では、次回の教育委員会の日程についてではありますが、既にご承知のとおり、10月14日（火）午前10時00分から開催いたしますので、ご参集願います。

この際、11月の教育委員会の日程について事務局から提案願います。

（11月の教育委員会について日程調整）

林委員長 では、11月の教育委員会は、11月27日午前9時から開催いたします。

なお、11月4日（金）午前10時から教育委員会表彰を行いますので、ご出席くださいますよう、よろしくお願いいたします。

下山委員 以前ライフパークに研修へ行った時に言われていた、11月12日にある県の研修は時間が決まっていますか。

富森庶務課長補佐 私の方では12日何も聞いておりませんが、確認し、またご連絡いたします。

では、これで審議がすべて終了いたしましたので、本日の教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後5時12分